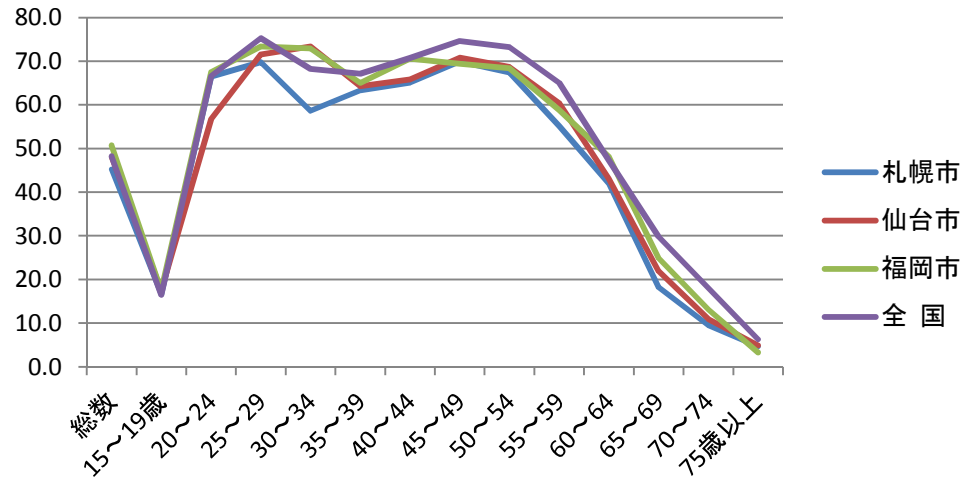


1. 現状と課題

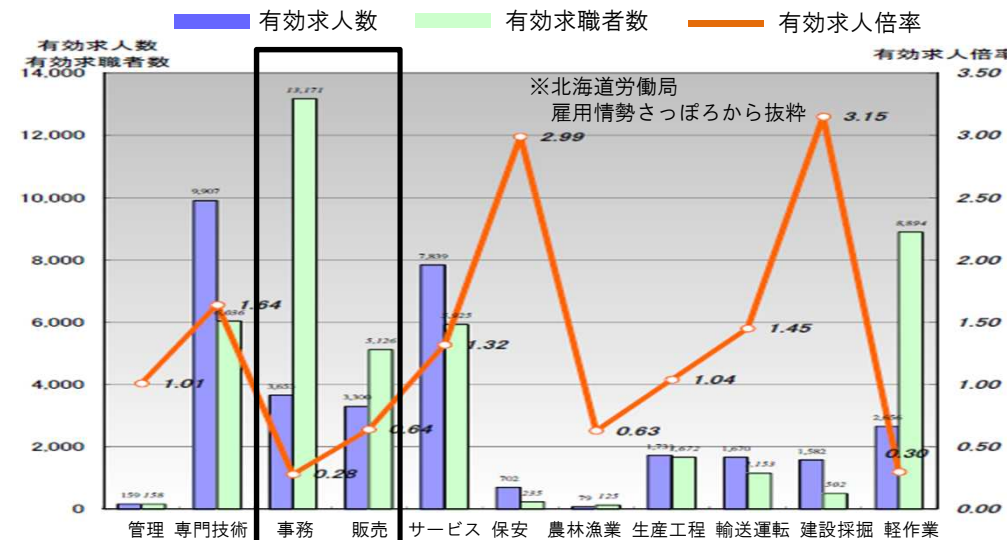
①女性の有業率（平成24年）

・女性有業率（15歳以上人口に占める就労人口の割合）は45.2%と、全国平均（48.4%）を下回っている



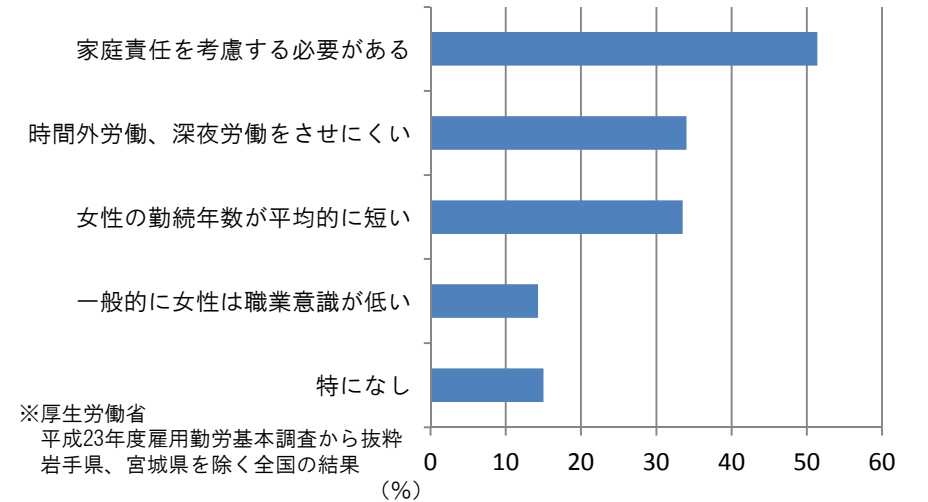
②女性の就職希望職種

・一般事務職や販売への就職希望者が多い傾向にあるが求人はい少ない



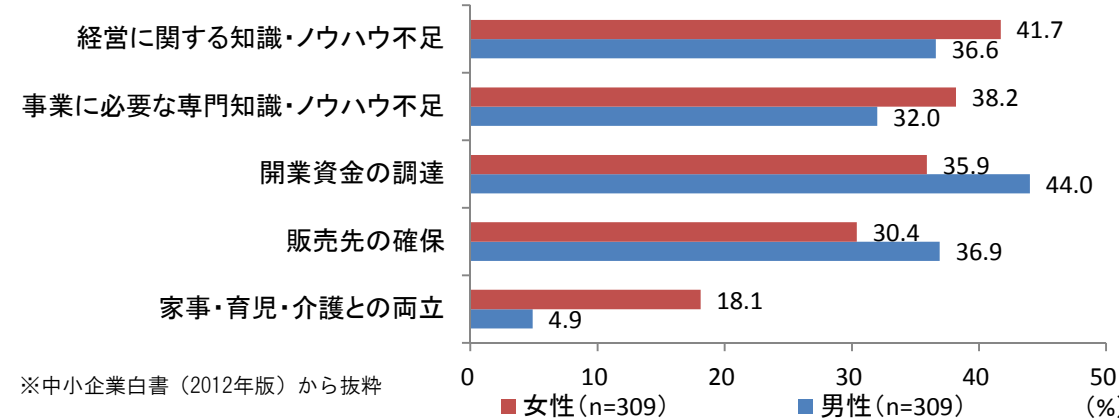
③企業から見た課題

・8割以上の企業が、女性の活躍を推進するうえでの課題があると回答



④女性の起業の課題

- ・男性と比べて「経営に関する知識・ノウハウ不足」、「事業に必要な専門知識・ノウハウ不足」との回答が多い
- ・「家事・育児・介護との両立」を課題とあげた女性は男性の約4倍
- ・男性の診断士には相談しづらい、女性の起業家同士の交流の場が欲しいという声



⑤現状と課題のまとめ

- ・再就職を希望する多くの女性が、子どもの預け先がない等の就職の壁に直面し、就職を諦めたりするケースが見受けられる
- ・企業側の受け入れ体制、受け入れニーズと就労したいと思っている女性のニーズのミスマッチ
- ・市内の経営相談窓口には、女性の専門家がほとんど配置されていない、女性起業家の交流の場が少ない

2. 具体的な取組

①離職予防

◆女性社員の活躍応援事業（新規）
【H26予算案：12,700千円】

- ・女性が企業に長く勤めるため、産休・育休・職場復帰等についての知識を得ることで、再就職や職場復帰のハードルを下げる
- ・労働者への講習のみならず、企業側への講習も実施することで、労使双方の理解を高めていく

②就労支援

◆就業サポートセンター等事業
【H26予算案：150,744千円】

- ・就業サポートセンターにおいて、再就職を希望する女性を対象としたセミナー、カウンセリングなどの再就職支援を行う
- ・平成16年から実施 ⇒ 3,000人を超える就労



- マザーズハローワーク札幌(国)
 - ・専門のカウンセラーが就職プランのアドバイスやサポート
 - ・無料の託児サービス付き
- 中小企業新戦力発掘プロジェクト(国)
 - ・再就労を希望する女性などを対象に日当を助成する職場実習を通じてブランクを埋め、職場復帰を促す

③起業支援

◆女性起業家育成事業(新規)【H26予算案:2,300千円】

- ・毎週1回、同じ立場の女性の視点でのアドバイスを受けられる女性中小企業診断士による起業前・起業後の経営相談を行う。また、ベンチャー支援事業、創業支援資金などの創業支援策の活用につけていく

- 中小企業経営力強化資金制度(国)
 - ・創業、事業転換等により新たな事業活動への挑戦を行う者に対し、日本政策金融公庫から低利融資を受けられるようにする（基準金利-0.4%）
 - ・創業後7年以内の女性には基準金利から-0.65%で融資

3. 論点

女性の起業や就労に関する実情や市の支援策についてご意見をいただきたい